

無鉛 防藻・防かび

1液水性アクリル薄膜床用塗料

水性フロアー



■乾燥性

温度	10℃	23℃	30℃
上塗り可能時間	5~48時間	2~48時間	2~48時間
歩行可能時間	18時間以上	12時間以上	8時間以上

※乾燥時間は施工環境により多少前後しますのでご注意ください。

■性状・物性

試験項目	試験結果	試験条件
外観	着色粘稠液	
引っかき硬度	HB	JIS K 5600鉛筆法
摩耗質量	100mg	JIS K 7204 テーパー式摩耗試験機、CS-17 9.8N 回転数1000回
鏡面光沢度	80	JIS K 5600入射角60度
耐候性	異常なし	ウェザーメーター300時間
ホルムアルデヒド 放散等級	F★★★★	JIS K 5601-4-1

■耐薬品性・耐油性

試験項目	結果	試験条件
耐水性	◎	水道水、一ヶ月浸漬
耐塩水性	◎	20%塩水、スポット試験48時間
耐酸性	○	10%塩酸、スポット試験48時間
	○	10%硫酸、スポット試験48時間
	△	10%硝酸、スポット試験48時間
	△	10%酢酸、スポット試験48時間
耐アルカリ性	◎	10%苛性ソーダ、スポット試験48時間
	◎	10%アンモニア、スポット試験48時間
耐生活材性	◎	飽和砂糖水、スポット試験48時間
	◎	醤油、スポット試験48時間
	◎	ソース、スポット試験48時間
耐油性	◎	サラダ油、スポット試験48時間
	△	灯油、スポット試験48時間
	△	エンジンオイル、スポット試験48時間
	△	切削油、スポット試験48時間

※判定 ◎=異常なし/○=やや艶引け/△=やや影測 ※スポット試験は、JIS A 5705に準拠
※試験結果は、弊社における試験に基づくもので、保証値ではありません。

◆施工上の注意事項

- 下地は、砂、ゴミ、ホコリ、油等を完全に除去して下さい。また、新設コンクリート・モルタル面の表面には、レイトランス(遊離アルカリ)による脆弱層が形成されるため、密着不良の原因となります。必ずワイヤー付きポリッシャー等でレイトランス層を完全に除去して下さい。
- コンクリート・モルタルの養生不足は、水分の影響により塗膜層のフクレ、硬化不良を、またアルカリの影響により密着不良を招く場合があります。したがって、含水率が、高周波水分計ケット社製HI-500・HI-520で測定し、コンクリートレンジの表示値が5%以下、かつ、pH9.5以下になってから施工して下さい。コンクリート・モルタルは打設後、常温乾燥で夏期3週間以上、冬期4週間以上の期間が必要です。また、降雨直後で下地に水分を含んでいる場合は、2日以上乾燥させて下さい。
- 下地のアスファルトコンクリート面は十分な転圧と緻密な仕上がりを必要とします。アスファルトコンクリートの脆弱部は完全に除去して下さい。
新設の場合は2週間以上期間を取り、表面の油分を無くして下さい。
- 新設アスファルトコンクリートで転圧後すぐに塗装する場合は、フロンオイルクリーナーとポリッシャー(またはデッキブラシ)を使って表面の油分を入念に除去、高圧水洗機で丁寧に洗浄、十分に乾燥させた後、研磨機(ライナックス等)のダイヤの刃で研磨、またはポリッシャーとサンドペーパー #40で研磨を行い、十分に清掃して下さい。
また、1週間以上放置しても表面の油分が十分に消失しない場合も同様に処置して下さい。
- アスファルトコンクリートの密度により使用量、乾燥時間が変化しますのでご注意ください。
- アスファルトコンクリートの骨材の影響でサビが発生する場合があります。水性フロアーを塗装しても、経時でサビが表出する場合がありますので予めご了承下さい。
- コンクリート・モルタル等に発生した亀裂は、Uカットして、フロンエポパテ等を充填し、亀裂面が平滑になるように研磨して下さい。
- アスファルトコンクリート面には直接、水性フロアーを施工して下さい。
- 施工後23℃では、12時間程度経過後、歩行可能となります。ただし、この時間帯は、温度、使用量、換気状態によって変化しますのでご注意ください。
- 床面に貼り付けたラインテープ等を除去する際、塗膜が剥がれる場合があります。
- 床暖房やロードヒーティング床面には塗装しないで下さい。剥離や雪解けが悪くなるなどの不具合が生じる場合があります。
- ご使用になる環境を十分に考慮して適正な材料と施工法を決定して下さい。
- カチオン浸透エポプライマーに使用したローラー、ハケ等は水性フロアーと共用しないで下さい。他の容器に移す場合はプラスチック容器を使用して下さい。金属容器を使用すると錆が発生する可能性があります。
- 気温5℃以下、湿度80%以上では施工しないで下さい。
硬化時間、硬化後の性能は施工時の温度に大きく影響されます。

10℃以下 乾燥後退	15℃~25℃ 最適	30℃以上 乾燥促進
(密着不良、ひび割れ、カブリ等発生)		(作業性悪化による仕上り不良)

- 開封後は速やかに使い切して下さい。
- 直接皮膚に触れないように十分に注意して下さい。もし、触れた場合は、ウエス等で十分に拭き取り、中性洗剤で洗って下さい。
- 水性フロアーは、水を希釈剤としているため、凍結する恐れがあります。凍結したものは、正常な塗膜が得られないことがあるため、凍結させないように保管して下さい。
- 材料の保管、取り扱いについては、消防法、労働安全衛生法、その他に基づき十分な管理をお願いします。
- 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので、施工時及び施工後の換気を充分に行なって下さい。
- 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄するときは、産業廃棄物として処理して下さい。
- 容器、塗装具などを洗浄した廃液は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産廃処理業者に処理を依頼して下さい。

業務用

《共通注意事項》 1.取扱いについては、**容器に表示された注意事項を守って下さい。**
2.アレルギー性等の特異体質、皮膚過敏症や呼吸器系疾患を有する人は、取扱いを避けてください。
(呼吸困難や喘息を引き起こす恐れがあります。)
※詳細な内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

●お問い合わせは・・・

 **東日本塗料株式会社**



本社/〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306
埼玉工場/〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518
仙台営業所/〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320
新潟営業所/〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730
静岡営業所/〒422-8037 静岡市駿河区下島128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063

 **東日本塗料**

水性アクリル薄膜床用塗料

無鉛 防藻・防かび

水性フローア

防塵性

に優れ、
コンクリート・モルタルの
劣化や発塵、汚れやホコリの
付着を防ぎます。

水性

なので取り扱いやすく、
作業が簡単!乾燥性に
優れています。

密着性

に優れています。
コンクリート・モルタル、
アスファルトコンクリート
との密着性に優れています。



用途

- ①ショッピングセンター、展示場などの商業施設の
アスファルトコンクリート、コンクリート・モルタル床面
- ②歩道、遊歩道などの床面

容量・塗装面積

品名	容量	標準塗装面積
水性フローア	16kg	0.15~0.3kg/m ² ×2回塗りで26~53m ²
	4kg	0.15~0.3kg/m ² ×2回塗りで6~13m ²
カチオン浸透エポプライマー	15kg	0.15kg/m ² ×1回塗りで100m ²
	4kg	0.15kg/m ² ×1回塗りで26m ²

※塗装面積は下地状況により異なりますのでご注意ください。

色相

※色相はフローン床材色見本帳をご参照下さい。

常備色(6色)	標準色(15色) ※受注生産	指定色
A-1 マスカットグリーン	B-4 ムーングレー	B-15 キャメルイエロー
A-2 エメラルドグリーン	B-5 シルバーグレー	B-22 マイルドグリーン
A-3 フレッシュグリーン	B-6 ハンターグリーン	B-16 チャイナベージュ
A-4 フォックスグレー	B-7 セメントグレー	B-18 ラインイエロー
A-5 サンドベージュ	B-12 ライトベージュ	B-20 ライトグレー
A-6 スカーレットブラウン	B-21 アーモンドブラウン	B-23 ウォーターブルー
		B-24 ハーベストブラウン
		B-25 マリンブルー
		B-26 ゴールデンイエロー

イエロー系等の明度及び
彩度の高い色は、隠ぺい性が
低いので上塗り工程1層目に
共色(調色品:白=1:1混合
品)の塗装をおすすめします。
また、下地の色、凹凸の状況、
下地の吸い込み等の条件に
よっては、上塗り工程が標準
塗装回数より多くなる事が
あります。

標準工法

工法名	工程	材 料 名	使用量 (kg/m ²)	上塗可能時間 (23℃)	備 考
コーティング工法 (総合塗膜厚約0.2mm) 	1	素地調整	-	-	※施工上の注意事項をご参照下さい。
	2	カチオン浸透エポプライマー	0.15	2時間~ 48時間	原液のまま、中毛ローラーにて塗布。 吸い込みの激しい場合は2回以上塗布 して下さい。
	3	水性フローア 水道水	0.15 0.045	2時間~ 48時間	水道水で30%希釈し、中毛ローラー にて塗布。
	4	水性フローア 水道水	0.15 0.045	12時間以上 (軽歩行開放時間)	
コーティング工法 密粒アスファルトコンクリート面 (総合塗膜厚約0.2mm) 	1	素地調整	-	-	※施工上の注意事項※3、※4をご参照 下さい。
	2	水性フローア 水道水	0.3 0.09	4時間~ 48時間	水道水で30%希釈し、中毛ローラー にて塗布。
	3	水性フローア 水道水	0.3 0.09	12時間以上 (軽歩行開放時間)	
防滑工法 (総合塗膜厚約1.2mm) 	1	素地調整	-	-	※施工上の注意事項をご参照下さい。
	2	カチオン浸透エポプライマー	0.15	2時間~ 48時間	原液のまま、中毛ローラーにて塗布。 吸い込みの激しい場合は2回以上塗布 して下さい。
	3	水性フローア 水道水	0.15 0.045	直後	水道水で30%希釈し、中毛ローラー にて塗布。
	4	フローン硅砂6号 又は7号(追吹付)	0.3	3時間~ 48時間	前工程直後、リシガン(口径3~ 4mmφ)にてフローン硅砂6号又は7 号を散布。乾燥後、余剰なフローン 硅砂を除去。
	5	水性フローア 水道水	0.2 0.06	2時間~ 48時間	水道水で30%希釈し、中毛ローラー にて塗布。
	6	水性フローア 水道水	0.2 0.06	12時間以上 (軽歩行開放時間)	

※カチオン浸透エポプライマーに使用したローラー、ハケ等は水性フローアと共用しないで下さい。
※アスファルトコンクリートの骨材の影響でサビが発生する場合があります。水性フローアを塗装しても、経時でサビが表出する場合があります
ので予めご了承下さい。

施工例

